

平和への願い

新城 みかり

「平和」という言葉には、たくさんの思いが込められていきます。幸せ、自由、夢など、人それぞれ感じ方や考え方が違い、一人ひとりの平和があります。

一つの考えとして、辞典では「変わった出来事がなく無事なこと」「戦争がなく世の中が治まっしていること」などが書かれています。た。

平和とは、「秩序をもった自由」だと、私は思います。秩序を簡単に説明すると、「物事を行う正しい順序や社会のきまりの事をいいます。人に迷わくへかけない自由が、平和へのつながる道だと思ふのです。また、辞典に書かれていた「戦争のない世の中」も平和につながると思っています。私は実際に戦争を体験したことはありません。日本であった第二次世界大戦からもう七十四年もたっているので、戦争を体験した事があるという人は少なくな

っているでしょう。  
でも、体験した事がなくても、話を聞いた  
り、調べたりする事はできます。

私の祖母は戦後すぐ生まれ、戦争は体験し  
ていませんが、祖母のおじさんやおばあちゃん  
は戦争で命を落としていました。また、そ  
の当時本土では沖縄の人を琉球人と呼び、戦  
後働く場がなく困っている中、琉球人を一番  
先に職場解雇したりと、差別があった事を聞  
きました。

六年生の時に平和学習で行ったひめゆり平  
和記念資料館では私と同世代の女学生が日本  
への為、兵隊の為に命を捧げました。沖縄に  
あるたくさんの方がマでは生と死の過酷な選択  
をさせられ、たくさんの方が奪われました。  
命はどんなものにも変えることが出来ないは  
ずなんです。でもその考えを忘れ、たくさん  
の命が消えてしまった戦争。平和な世の中が  
続く為には昔この日本でも戦争があった、た  
くさんの人の命が消えてしまったことを忘れ



ずと同じあやまちをおかさないようにすること  
とが平和へつながる一つの道だと思えます。  
ただ、戦争がなくなることをだけが平和とは  
限りません。最近日本も含め世界では、新型  
コロナウイルスが流行し、非日常な生活にな  
っていきます。これ以上苦しむ人が出ないよう  
に、自粛の呼びかけが行われ大勢の人が自分  
の命、家族の命、周りの人の命を守る為外出  
をひかえていきます。そんな中、大々大人がパ  
チニコ店へ行ったり、用もないのに人通りの  
多い所へ散歩に行ったりと、子どもでもがま  
んしている事を平気でやっていているのです。ま  
た、インターネット上で偽の情報を流して人  
を傷つけたり、他府県から来た車をあおり運  
転したりなど、たくさんの人を困らせたり、  
勝手に差別をしている人もいます。

戦争中も、コロナで大変なときも、人は誰  
かを差別して傷つけて自分だけが生きようと  
しています。人それぞれが考えがあり、今の  
状況はみんなの外へ出たいと思えます。しかし、

今はステイホームを合言葉に、家で過ごす事こそが秩序を守る平和だと思えます。

今の私には家族がいて、家に帰ることが出来ます。たくさんご飯が食べれて、たくさん寝ることが出来て、友達がいて、学校へ行けて、勉強することが出来ます。さらには、色々な場所へ行ったり、好きな事を自由に出来ます。夢をたくさんもつことが出来ます。これは、秩序をもち、周りの人に支えられ、自由に出てくるからこそ、楽しく平和に暮らせます。だからこれから私は秩序をもち続け、平和に暮らしたいです。

世界中から戦争がなくなり、早くコロナウイルスが終息することを願うながら、世界中が平和に包まれますように。